

「薄桜記」は、五味康祐の原作を「時代劇の父」と呼ばれた監督・脚本家の伊藤大輔（1898～1981）が大胆に脚色したシナリオを、弟子にあたる森一生（1911～1989）が監督し、1959年11月に公開された。併映作は「浮草」（小津安二郎監督）。

赤穂浪士の吉良邸討ち入りを背景に、知心流の剣士・丹下典膳（市川雷蔵）と妻千春（真城千都世）の悲恋、四十七士の一人である堀部安兵衛（勝新太郎）が抱く恋心や友情など、数奇な運命に翻弄された3人を描く。

安兵衛の高田馬場での敵討ちに、偶然居合わせた典膳は、ささいな行き違いから逆恨みされた同門の5人組に妻を陵辱され、安兵衛との不義密通のうわさまでたてられる。苦悩する典膳は機転でデマを打ち消すものの、武士の面目もあり、心では愛する千春を里に帰し復讐を誓う。だが、離縁の理由を一切言わない典膳は、激高した千春の兄に片腕を切り落とされてしまう。凜々しい若侍姿から、復讐に燃える隻腕の剣士へ、雷蔵の姿ぶりが鮮やかだ。そこには後の当たり役「眠狂四郎」にも通じる虚無感が漂う。

クライマックスは桜のように舞い散る雪の中、銃で足を射抜かれた典膳が、横たわりながら片腕で大勢と切り合う大立ち回り。力尽き息絶える典膳の手を握り絶命する千春。残酷な結末でありながら、森監督の演出と雷蔵の端正な演技が美しい名場面を作り出した。

競演する勝は、「花の白虎隊」（54年）で雷蔵と同期デビューしたライバルであり、大映黄金時代を支えた二枚看板。当時はまだ白塗りの二枚目役で、その美青年ぶりが新鮮だ。



◆「ヒーロー」をテーマに作品を選んでいきます



文・山内浩司  
写真・戸村 登  
2面に続く



映画に登場する二尊院の参道「紅葉の馬場」。今年ももみじ狩りを楽しむ大勢の参拝客でにぎわった＝京都市右京区

NIPPON 映画の旅人

「薄桜記」は、中世も人気の高い一本だ。同館は来年で開館50年になる老舗だが、ミニシアターとして個性的なプログラムを組んできた企画運営会社が3年前に撤退し、20～30代の若いスタッフが運営を引き継いだ。今年の映画祭を企画した館長の吉田由利香さん（29）は入社当時、雷蔵の名前すら知らなかった。でも今ではすっかりはまっている。「陸軍中野学校」での眼光の鋭さ、素直にかっこいいと思う。役に

# 「永遠の雷蔵」胸に刻んで

「薄桜記」（1959年）

よって全くイメージが変わるのもすごい」。何より、「ファン」の熱いエネルギーにいつも圧倒されます」と語る。

37歳の若さで、肝臓がんによってこの世を去った永遠のヒーロー、市川雷蔵。来年後45年を迎えるが、死後、何度もブームが起き、その度に新しいファンが生まれてきた。

映画祭にも全面協力するファンクラブ「Rainier Club」を11年前から主宰する三輪昌子さん（67）も、生前の雷蔵の姿を知らない。米國在住ながら、年3回ほど来日イベントを開く。先週も京都で仲間たちとのロケ地巡りやオフ会を開いたばかり。そんな彼女が初めて雷蔵に出会ったのはテレビだった。福岡の中学2年生だった71年、たまたま放送された「ある殺し屋」の雷蔵に一目惚れする。その日から、この世にいない「スター」を追い続けた。

ゆかりの地を訪ね、資料を探し、当時を知るスタッフや監督、役者に会い、思い出話を聞く……。雷蔵を追って京都の大学に進学、卒業後、渡米し働き始めてから現在に至るまで、そのスタンスは変わらない。

何が三輪さんをここまで駆り立てたのか。昨年、85歳で亡くなった父は「お前は雷蔵に頼まれたのか」と、最後まで不満だったと笑う。「雷蔵さんという素晴らしい役者が存在したことを次の世代に伝えたい。願いはそれだけです」。ただのミスターに過ぎなかった学生時代の自分に、何の見返りも求めず、雷蔵について親切に教えてくれた映画人たちが、日本映画の黄金時代を支えた彼らへの恩返しの意味もあるのだ、という。

「薄桜記」のクライマックス。雷蔵は雷降る中、無残に斬り殺される。だが、本心には裏腹に別れるを得なかつた妻との永遠の愛は、その死によって成就する。そこには、時を超えて結び合うファンとの関係も、重なるように見えてくる。



NIPPON 映画の旅人

七変化がもたらす数々の神話

京都・嵯峨野にある「尊院」。紅葉の馬場と呼ばれる広大な参道は、名前の通り紅葉の名所として知られる。この場所から「薄桜記」の撮影は始まった。

「これが最後だ。こうして夫婦で歩くのは」。市川雷蔵演じる丹下典膳が隣辱された妻の千春に、裏家へ戻れと言いつつ、消しがたい癖はそちらの罪ではないから、とがめはめが、理屈で頭を許せても、わしの体が許さないとせめ。この挿入の心情を吐露し、すすり泣く若妻。千春を演じた眞壁千都子さん(67)はこれがデビュー作。想像していた以上にセリフも多い大役で無我夢中でした。と振り返る。松竹映画で活躍したとダンサーだった22歳の新人女優には、大スターだった雷蔵は近寄りたがいない存在にみえた。手鏡の持ち方がおかしいと、びしゃり叱られたと覚えている。でも「感情の深いところまでつかまえていくまで17回しや歌舞伎で鍛えられた口調の美しさを、これも素晴らしい」と語る。

大きな体格で豪放磊落に見える森監督だが、「根は優しくて細やかな人だった」と井上さん。典膳と千春の愛を象徴する小道具として、紙のひな人形を効果的に登場させるなど、持ち味が發揮されていたと語る。クライマックスの寝

そべての大立ち回り。普通なら派手に撮りたくなるどころも、美しさが際立つよう演出されている。「雷蔵君の動きもよく、新鮮な殺陣になった。今見ても抑制の利いたドラマになっていますね」。井上さんの監督デビュー作「幽霊小判」(1960年)には、雷蔵がゲスト出演していた。助監督が立ちまわるときには、「さか出るとこない」と自ら声をかけて接する気遣いをみせた。大スターぶたをこころのない人だった。役者仲

間より、スタッフと遊ぶ方が好き。眼鏡をかけた普段の姿はまじめな顔つき。そのも。それがスクリーンでは一変する。「ムー」は必ず自分の手で。その姿はかつてを担当する床山さん以外、誰にも見せなかったと井上さんは言う。

雷蔵の妻は東京大田区の池上本門寺にある。伝説の大スターとは思えない、ごく普通のお墓だが、今も供えられる花が絶えない。近くに住む片山時子さん(82)は、10年前からほぼ毎日訪れ掃除をしている。日舞を教えたいた独身時代、デビュー直後の雷蔵に手紙を出し、会うことがあったという。結婚後はファンから選んでいたが、雷蔵二十三回忌の年に夫が急死し、ふき込んでいた時、驚き参りが立ち直るきっかけになった。今や生きる支えでもある。「五十回忌までは続けるつもりです」。

◆世界遺産・元離宮「築城」。「薄桜記」に登場する「のれ御殿」を再現し、修学旅行生たちが記念写真を撮りこんでいた。

◆京都文化博物館は約30万点の映画関係資料を収蔵している。「薄桜記」のポスターも保管されていた。いずれも京都市中京区

美しくもはかない雷蔵の運命を投影した「薄桜記」

「時代劇の悲しみを持っていますからね、あの人は」。メロマンをこたえ、生監督は回想「森一生 映画旅行」で述べた。雷蔵は生後半年で養子に出され、19歳で関西歌舞伎の重鎮、市川春海と養子縁組する。複雑な生い立ち、時局に製園から映画界への転身には、「誰にも言えない苦しみがあったんじゃないか。それが人間としての、シヤン(映画)に出る。一方、その悲しみを突きつけた爽やかな併せ持った」「ちよん(井上ひさし)じゃない俳優さんだった」とも語る。



◆次回、熱血若手刑事を主人公に、組織の矛盾や仕事を通じた友情を描いて人気を博したシリーズ「踊る大捜査線」の予定です。

「百人一首」で名高い小倉山のふもとにある二尊院 (075・861・0887) は、釈迦如来と阿彌陀如来を本尊としてまつている。参道「紅葉の馬場」や境内は映画、テレビによく登場し、「剣劇王」阪東妻三郎の墓もある。拝観料500円。二尊院から嵐電嵐山駅の周辺は嵯峨野巡りの代表的コース。戦前から戦後に活躍した時代劇スター、大河内傳次郎の別荘だった大河内山荘(075・872・2233)は日本庭園が有名。入場料千円(抹茶・菓子つき)。映画にまつわる地を訪ねる散策も楽しそう。



嵐電嵐山駅から雑字ノ辻駅で下車し徒歩15分ほど。現在の太秦中学校周辺が、大映京都撮影所跡地だ。同中正面横には大映製作「羅生門」(1950年)のベネチア映画祭グランプリ、アカデミー賞特別賞受賞を記念した金獅子像、オスカー像をあしらった碑=写真=がある。

「薄桜記」のDVD=写真=は発売元・KADOKAWA角川書店、2940円。20日から「ひとり狼」など10作品が廉価版(2940円)で発売されるほか、「眠狂四郎」「忍びの者」シリーズなど代表作も同社から。CS放送「時代劇専門チャンネル」(0570・200・262)の「市川雷蔵 時代劇全仕事」(毎週日曜7時・19時)では、来年10月まで雷蔵主演の時代劇全133作品を順次放送中。「薄桜記」は15日19時、31日17時5分に放送される予定。



京都府右京区の太秦大映通り商店街にある「キネマ・キッチン」(075・871・6556)には大映の二枚看板、雷蔵と勝新太郎にちなんだオリジナルメニュー「かつライス」(850円)=写真=がある。チキンカツのあったオムライスにカレーソースがかかる。店内には雷蔵・勝新の大きなパネルや大映ゆかりの品々を多数展示し、「ファンの方に喜ばれています」と松田路店店長。ヘルシーな京のおばんざいメニューや「大魔神弁当」(1500円)も人気だ。



山根貞典編『完本 市川雷蔵』(ワイス出版、4935円)は豊富な写真がその魅力を伝える。ファンクラブ「RaiF-Club」のHP(<http://www.raizofan.net/>)の資料も読み応えがある。

「鳥獣戯画」をあしらったお香とおみやげと、雷蔵クリアファイルをセットで10人の方に差し上げます。はがきに住所・氏名・年齢・「14日」を明記し、〒119-0378 晴海郵便局留め 朝日新聞be「映画の旅人」係へお送り下さい。19日の消印まで有効です。

今週紹介した本やDVDは朝日新聞デジタルから購入できます。<http://www.asahi.com/shopping/tabibito/>